

# 未来の里山につなげる「さとぶろ。」

里山の再生に向け、里山の恵みを活かす取り組み「さとぶろ。」。「楽しい！」が里山の再生につながる活動が始まっています。



木材資源を活かす薪づくり

第2次里山再生計画が見据える、未来の里山のイメージ



マツタケの復活を目指した赤松林整備  
「よみがえれ!マツタケ!」



「さとぶろ。学校」 間伐実習の様子

安曇野市里山再生計画推進協議会(さとぶろ。全体の総合調整機能を持つ)

サポーターの登録はこちらへ

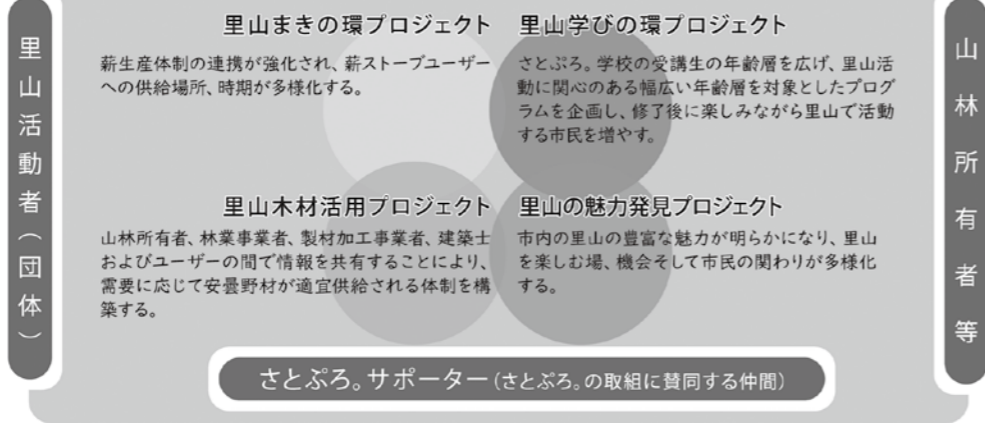


さとぶろ。HP



さとぶろ。

園耕地林務課林務担当(さとぶろ。事務局)  
TEL 71・2432 FAX 71・2507  
✉ kouchirinmu@city.azumino.nagano.jp  
URL http://azumino-satopro.org/



第2次里山再生計画における組織構成図

# 第2次里山再生計画が始まっています



平成27年から始まった「里山再生計画」は、5年間の第1次計画期間を終え、人と里山を継ぐ取り組み「さとぶろ。」を推進してきました。そして、この4月より第2次計画期間が新たにスタートしました。

明科地域で65年以上林業を営む内川利喜夫さん(写真右)。斜面の切り株は、前年に皆伐されたものです。新たな芽が萌芽して再び薪炭林が形成される。この写真は、人の営みと里山の関わりを象徴したものです。

## 安曇野市の里山

北アルプスを含めた緑豊かな森林は、市の総面積の約3分の2を占めています。この森林のうち人里近くにある里山は、犀川により二分され、東山にはコナラを中心とした広葉樹林、西山にはカラマツやヒノキを中心とした針葉樹林が多く分布しています。

## これまでの里山と私たち

ほんの数十年前まで、私たちは薪や炭で炊飯し、木材で家建て、落ち葉や腐葉土を畑や田んぼの肥料として利用し、その多くを里山から得て生活をしていました。里山は常に人の手が入り、その豊かな環境とさまざまな機能が保たれてきました。

しかし、エネルギー革命とともに、燃料は石油や電気等に替わり、安価な輸入木材により国産材の需要は激減し、里山の資源は利用されなくなってしまう。人の営みと里山の距離が離れてしまったことにより、かつて植林された人工林は間伐されずに放置され、松くい虫被害や野生鳥獣被害、竹林の拡大等さまざまな問題が発生しています。

## 未来の里山と私たち

未来の里山への第一歩は、より多くの人々が里山に関心を持ち、私たちの暮らしと少し遠くなってしまった里山との距離を縮めることです。山菜やきのこを採る、狩猟や紅葉狩りをするなど、実際に里山に入ることも

ちろん、ジビエを食べる、地域の木材を住宅や薪として使うといった里山資源の活用など、里山との関わり方はたくさんあります。

現在の私たちの暮らしにあった里山の楽しみ方を、一緒に探しませんか。あなたの「楽しい！」を、里山の未来につなげましょう。

## 第2次里山再生計画スタート

里山再生計画の第1次計画期間に、「人と里山をつなぐ」さまざまな取り組み「さとぶろ。」が始まりました。里山について学ぶこと、安曇野の木を使うこと、里山の恵みを活かして楽しむこと、松を守ることを目的とし立ち上がった、5つのプロジェクトです。

第2次計画期間では、プロジェクトが4つに再構成され(左図)、引き続き、里山再生の取り組みを、市民・事業者・行政が協力しながら推進していきます。推進協議会、「さとぶろ。」サポーターとともにより多くの人に参加してもらい、現在の生活スタイルに合った里山資源の活用を推進していきます。

## さとぶろ。サポーター募集中

里山につながるさまざまな情報を共有しながら、「楽しい！」を里山再生の活動につなげる仲間です。里山に関心を持ち、里山の恵みを活かしながら、その活動を楽しみ、次世代へ里山の環境をつなげる仲間を募集しています。私たちと一緒に里山を楽しみませんか。

山林所有者等